

ロボット製作に取り組む
小中学生

目 次

特集 対談「卒業を前にして」	2	入試説明会・校内見学会	11
シリーズ「研究室訪問」	4	シリーズ「クラブ紹介」	12
シリーズ「中学校訪問」	5	学寮だより	13
シリーズ「人物・いま」	6	学生会だより	14
ちょっといい話	7	ラグビー 高専大会・冬季球技大会・定期演奏会	15
特集 ロボットJリーグ有明ステージ'95	8	建築設計競技・編集後記	16

= 特集 = 対談 「卒業をまえにして」

出席者 緒方栄介(5 M) 中島孝明(5 E) 荒山和子(5 I)
タン・チャン・キー(5 C) 白石泰土(5 A) 司会 川崎義則(機械工学科)

司会 皆さん、あけましておめでとうございます。きょうは、残すところ2カ月半で卒業され、また成人式を目前にされている皆さんにお集まりいただきました。『卒業をまえにして』のテーマで活発にお話しください。まず高専生活を振り返って、印象に残ったことからご紹介ください。学生会長をされた荒山さんから順にどうぞ。



荒山 学生会の仕事のなかで、やはり昨年秋の高専祭が一番印象に残っています。企画から実行まで一連の仕事をすべてやれました。大変でしたが、今思えば楽しいこともたくさんありました。

司会 学生会長といつても、実際は地味な役で大変な

ですが、みんながまとまって、ひとつのことが出来上がったときはなんともいえませんよね。

タン 私は留学生として3年生に編入してきたわけですが、最初のころ、自分自身日本語がうまく話せず、友達もできず、授業もよくわからず大変苦労したことが印象に残っています。また、その頃、色のついた眼鏡をかけていましたが、そのため、まわりからよくみられず「どうして、眼鏡一つぐらいで?」とも思ったものでした。

白石 私は、5年間のほとんどをクラブに費やした感じです。何と言っても漫画甲子園に出られたこと、そのことを通して何かすごく自信が得られた気がしています。中島 僕の場合は、昨年の高専祭での電球制御を担当したことです。今ではTVなどで結構複雑なものを見ているので、我々のが貧弱なのではと思っていましたが、中夜祭のお披露目で最初の電球が点灯し、観衆のどよめきを聞いたとき、本当にやってよかったと思いました。

司会 中島君は寮生でしたが、寮生活を通してはどうですか。

中島 1年生の頃がきついことが多かったから長く感じたけど、2年生以降は、それこそあつという間でした。団体生活で厳しい面もありましたが、これまで、いろんな人に助けられてきたと思っています。

緒方 部活もあるんですけど、高専祭の中夜祭で司会をして、またまた女性ファンが増えまして……(笑)自分の姿を再認識させられました。なかなか予定通りにいかず、イヤホーンを通じて「時間を引き伸ばしてくれ、適当に話をしてつないでくれ」など指示があり、全然事前の打合わせなしですから、本当に大変でした。

司会 ありがとうございました。お聞きして皆さんと共に

通することは、いずれも、それまで全く未体験のことには挑戦されたことが、やはり一番印象に残っているのだなあということですね。留学生のタン君、高専3年間の感想はどうでした?

タン 日本の学生は、非常に真面目だと評判を聞いてきましたが、実際は、授業中に寝ている学生が多くて驚きました。(笑) それと、日本は学生と先生の関係が友達みたいですね。インドネシアでは、先生はとても偉く、先生の言うことを聞かないと、あとでとても困りそんな関係はなかなかありません。



白石 高専は特別なのじゃないですか。高校などでは、先生とは全然話さないといいますよ。

司会 私には、学生がほとんど寄りついてくれません。悲しいですね。(笑) 実は、高専の開校当初は、旧制高校の雰囲気を目標にして学校作りしていたんですよ。寮生活、部活、読書などがキーワードで、友と人生を語るなどいぶん自由度のある学校というのが校風でした。

緒方 私も、入学して授業中みんなよく寝ているし(笑)

「こんなもんか」と思いました。

白石 クラスが、1年からずっと同じということもあると思いますよ。みんな慣れてしまって緊張感がないというか、5年間で、クラスメイトや、先生とも。でもいい面もたくさんあります。

司会 学校でも、下級生の混合学級について検討されていますがね。ところで、新年早々でもありますので、正月みられた初夢、あるいは日頃抱いておられる夢でも紹介いただけますか。

荒山 私はみなかったんですよ。(笑) でも、初詣にいったんですが、おみくじを引いたら大吉だったんです。よいよ社会人になる年だし、とても幸先いいスタートをきったなあとと思いました。

タン 今年は三社参りはできなかったんですが、きれいな初日の出を見ることができました。初夢は見なかったんです。私は、子供のころはパイロットになりたかったのですが、高校になり視力があまりよくなく、エンジニアの方に進み、留学しました。熊本大学に編入してもっと勉強したいと思っています。

白石 初夢は……、建築学科だから年末から卒業設計に追われていたんですよ。だから寝ている時も、画いている状態で。(笑) だから、建築の人はみんな冬休みはなかったですね。



中島 初夢とかはみても覚えていませんが、今年は大学(九州工大)へ編入するし、自分で考えて行動しないと何にも得られないと思うので、「しっかりと自分の考えを持ちたいなあ」と年の初めに思いました。

緒方 僕はですね、徹夜してたので昼間に寝てみた初

夢ですが、アニメの主人公になってた夢でした。(笑) 私は、小学校の頃から芸能界に入りました。ただ、親なんかにはばかにされるだけでした。涙を流すことを真面目に特訓したりもしました。一回オーディションを受けたこともあります。でも落ちました。(笑) だから、将来したいことといえばCMか映画関係の仕事ですかね。それなのに、実際にはそれとは全く違う機械装置のメーカー(第一精工)に就職が内定しました。(笑) 司会 そのキャラクターをもった緒方君が素晴らしいオートメーション設備を設計する。面白いのではないでしょうか。大学の文学部へいって小説書いて芥川賞作家になるというのではないと同じでね。本当の夢らしい夢の話がでたところですが、皆さんの方から何かありませんか。

白石 高専の就職斡旋のシステムはずっと変わらないのですか。?

司会 学科により若干違うのではないでしょうか。ただし、大学に比べればかなり丁寧にやられているとは思います。また高専は学校と卒業生、企業との関係が非常に強いこと、これにより今年度のような時は本当に助かったのも事実です。では、進路決定のことについて、後輩への助言を含めてお話をいただきましょうか。

緒方 会社からのパンフなどを参考に選びますが、僕はやはり一度会社を見た方がいいと思います。僕の場合はたまたま、工場見学を事前にしたので決めやすかったですけど、パンフだけでは難しい気がします。

中島 僕の場合は進学ですが、もっと極めたいのと、せっかく進学のチャンスがあるならと思ったことです。

白石 私は、進学希望(華中理工大学)ですが、就職を決めるのにみんなが焦っていて、もっとどうにかならないかなと思いました。

タン 僕も進学で、それは日本に来た時から希望していました。母国の大学をやめて日本に来たから、少なくとも日本の大学を出たいと思っていました。高専卒業だけでは、帰ってあまり意味がないからです。

荒山 私はラッキーにも1社目で、日本電気フィールドサービスに決まりんですけど、バブルがはじけて、特に女子は厳しく6社受けた人もいます。それで、会社を選んでいたのではダメで、自分のしたい仕事なら、たとえ小さな会社でも、将来大きな会社にするくらいの気持ちを持たないといけないと思います。積極的に活動することと、先輩のアドバイスをよく聞くことでしょう。司会 では、おわりに、後輩へのメッセージをどうぞ。

荒山 私は、5年間あるから、何かやりたいことをひとつでも見つけてやったらと思います。高専はそれが十分に、しかも楽しくやれると思います。

中島 夏期実習で感じたことは、高専卒と大卒の仕事の違いを感じました。高専では、先生方は大卒に負けない

ということで教育されていますが、学生の方にその意識が次第に乏しくなってきていたのではと思います。

白石 学生の中には、ただ学校に来ているだけの人もいるようですが、将来何をするかの夢を持って学んでほしいと思います。

緒方 この学校は頭のいい人は多いと思うんですよ。ただ人間味のあるというか幅の広い、そういう人が少ない気がします。うちのクラスだけかもしれません、部活もしない、友達同士でどこかへ行くとかもしない人が多過ぎるんじゃないかな。勉強も大事ですが、先輩後輩、友達との人間関係も大事だと思いますよ。

タン 若いうちに、いっぱいしたいことをしたほうがいいと思います。諺に『やれなかったのか。やらなかったのか』がありますが、やってやれなかったら仕方ないですが、やらなかったのなら後悔するかもしれませんね。

司会 例えれば、学校内でも多くの行事がありますね。でも、これらを学生の個々の能力を發揮する場として、もっと生かす工夫、これを今一度考える必要もあるようですね。もちろん対外的なイベントもそうですが。時間があつという間に経っていました。本日は活発なご意見をいただきありがとうございました。4月からは、皆さんのが選ばれたそれぞれの新しい道をしっかり進んでください。



シリーズ

研究室訪問

—— 今は川崎義則先生（機械工学科）です ——

研究テーマをおしえてください。

現在、主として適応制御の機械システムへの応用というテーマで研究しています。具体的には、これまで、クレーンの振れ止め制御、無人搬送車の誘導制御、そして倒立振り子系の安定化制御問題等を手掛けてきました。

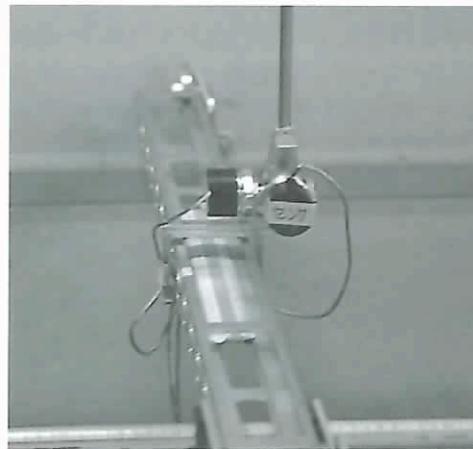
研究のきっかけをお聞かせ下さい。

熊本大学工学部の岩井善太教授との出会い当初（昭和47年）、制御対象（制御したい相手のこと、プラントといいます）にパラメータ変動、特性変動がある場合の、パラメータ同定、あるいはその制御をどう行うかという問題提起をしていただいたのが、研究の始まりです。興味深いテーマでしたが、当時は試行錯誤の連続でした。

現在までの研究状況はどうですか。

まず、適応制御の必要性を説明しましょう。プラントが変わらなければ、これまで沢山提案されている手法で制御すればよいわけですね。ところが、環境や運転の条件変化によって、プラントパラメータが変動したりすれば対応できません。そこで、プラントの変動を考慮した制御が必要となります。制御器（コントローラ）を適応的に自己調整しながら制御する、これが適応制御です。

ところが、従来のアルゴリズムは構成の複雑さが実用化のネックになっていました。そこでこの適応系の簡素化に焦点を絞って研究してきたのですが、近年熊本大学岩井研究室との共同研究で、構造が極めて簡単な単純適応制御、SAC（Simplified Adaptive Control）を提案しました。この手法を機械システムへ応用することで、その有効性を確認しているところで、すでに、SACが



二次元倒立振り子適応制御実験装置



木下技官・2名の卒研と 左端が川崎先生

シリーズ

中学校訪問

—— 歴木中学校（大牟田市）——

Q まず、歴木中学校の沿革からお話をお聞かせください。

A 本校は昭和22年大牟田市立第五中学校として創立され、現在の校名になったのは昭和25年のことです。また、5棟からできていた旧校舎は昭和51～60年にかけて鉄筋4階建に建て変わりました。昭和38年当時は43学級、生徒数2,034名を擁していましたが、通学区の変更や人口減少により、現在では22学級、生徒数743名に減少しています。それでも、大牟田市内の中学校では一、二番に多い生徒数だと思います。

Q 次に教育目標についてお聞かせください。

A “すぐれた知性と健康、豊かな心情を身につけ、人間尊重の精神に徹し、国家社会の発展と福祉に寄与し、新しい時代を創造できる自主自立の気迫に満ちた個性豊かな生徒を育成する”が教育目標です。

私はバランスのとれた人間に成長してほしいと思っています。成績はよいが友達とうまく遊べない、協調性がないとか、スポーツには優れているが自己中心的で思ひやりがないという人間にはなってほしくないと思っています。日常生活で異年令を含めた友達との遊びの場がなくなってきたことに「いじめ」の主な原因があると私は思っています。ここはがまんするところ、ここは自分の考えを言ってみようというようなことを日常の遊びの中で身につけていってほしいと思います。

Q 歴木中学校の特徴はどんなものがあげられますか。

A 生徒は明るくよく挨拶します。積極性・主体性および自ら正しく判断し行動する点にはやや欠けるものの、部活動には積極的です。その結果として、体操部、陸上部、柔道部においては県大会、九州大会、全国大会の団体、個人などで優勝、準優勝などの輝かしい成果を認めています。現在も学習面でも、部活動面でも先生方と生徒が一緒になって頑張っています。周辺は住宅地であるため、閑静であり、学習環境としては恵まれています。



武末 公徳 校長

Q 部活動の状況はいかがですか。

A 本校は部活動が活発で特にスポーツ関係では伝統がありスポーツの強い学校との評価を受けていましたが、ここ数年間低迷した時代がありました。本年度は陸上男子が市内優勝したのを始め、水泳、野球（2年連続）、剣道男子個人が優勝し、二位にバレーボール、卓球男子、三位にテニス男子、駅伝男子、バドミントン男子、水泳女子というように復活のきざしが見えてきており、若い先生方の指導でレベルが向上しております。

Q 中学生の考え方・行動は変わってていますか。

A 公共性、公徳心の欠落が気になります。自分のものは大切にするが、学校の施設、用具等は乱雑に扱うとか、ジュースの空き缶や菓子や飴の包み紙を道端に捨てるというものが見受けられます。自己を中心と考えすぎていると思います。皆の学校、皆の地域という意識を家庭や学校が地域の人達と一緒にあって指導していく必要があると思います。

Q 最後に、高専的印象、要望をお聞かせください。

A 大牟田市内にあるということで生徒達は親近感を持っているようです。ただレベルが高いので自分たちには関係ないという意識を持っている生徒も数多くおり、その点では公立高校ほどには密接な感情は持たないというのが現状です。本年度「ロボットコンテスト」の製作指導をしていただいたことは有明高専をより身近な学校として意識づけたに違いありません。このように、機会があれば交流できるようないろいろな試みをしていただければ中学校としても幸せに思います。

ゆるやかな長い坂道を登ると、正面に鉄筋4階建の棟が二つ並んでいて、右手の棟に教室、職員室、図書室等があり、左手の棟には音楽、美術、技術室等が配置されている。また、左右に平成2年に完成した体育館、プールがある。ご多忙な折りにもかかわらず、丁寧なお答えをいただいた武末公徳校長に感謝いたします。

(12月21日訪問 聞き手 松本 和秋)



シリーズ

人物・いま

今回は、永年勤続で表彰された2名の方にご登場していただきました。



事務部長
森田 正明



会計課
浦田美津子

過日、私は文部省の20年勤続者表彰を受けました。このことは、私のこれまで学校関係に勤務した37年間の内、文部大臣の任命に係る職員としての在職期間が10年以上という条件に達したからで、すでに大学での20年勤続表彰を受けておりましたのでこの種の表彰は2回目ということになります。この間の先輩、同僚の指導、力添え等を抜きには考えられませんし、また運良くこれまで健康で勤務できましたことに対しても感謝の気持ちで一杯です。しかし、今回の表彰は、私自身なんだか素直に喜ぶという気持ちになれないというのが正直なところです。1回目の表彰の際は、待ちに待ったもので非常に嬉しく感激したことなどを覚えていました。この時は私も若く、仕事の内容にしても集中して時間をかけなければ、それなりに成果があがり達成感も得ることもできましたし、残業につぐ残業で頑張っておりましたので当然という思い上ったところもあったと思います。さてそれから17年経っての今回の表彰に関しては、なにか証然としない心から嬉しい気持ちになれないのです。振り返ってみても、その間仕事の手を抜いた覚えもなく私なりに懸命に努力してきたつもりですが、今一つ満足感はありません。特にこの10年間は、私を育てくれた大学を離れ、2~3年間隔で異った高専や大学を経験させてもらっていますが、その重要なポストに与えられた責任を果たしてきたのかどうか、はなはだ自信がありません。今回の表彰は、私の過去に対して与えられたのではなく、これから残された数年間に、立派に職責を全うさせるための反省の機会とし、また激励の意味の方が強いのだと思っております。今後は定年を迎えたときに本当に充実した達成感を味わえるよう更に精進努力しなければと心に誓ったところです。

そして、飛行機の騒音と満員電車に別れ、この有明高専へ赴任し、周りの方々と学生たちの明るい笑顔に支えられ、これまでやってくることができました。公務員という職業と学校という職場を選んだことが、決して間違っていたなかったと今更ながら実感しています。

私の人生には、5年ごとの節目があるようです。この表彰もその節目の一つであり、自分自身を振り返るよい機会として受けとめています。これからもよい出会いを大切にし、健康で楽しく仕事ができるよう努力していくたいと思います。

○○○ ちょっとといい話 ○○○

吹奏楽部出張演奏

1 天道校区民のつどい

天道小学校の校区では、人口減少のため沈みがちになる住民および児童を元気づけるために、PTAと公民館が中心となって、「天道校区民のつどい」を実施しておられます。この催しに、本校吹奏楽部は要請を受けて参加し、天道小学校の体育館で、全校児童およびPTAの前で約1時間程度の演奏会を開いています。部員は、演奏を聴かせるだけでなく、楽器を紹介したり、パフォーマンスを披露したりして、小学生たちに喜んでもらえるよう努力をしているようです。「つどい」自体は11回目だそうですが、この演奏会も平成2年から連続して6回を数え、すでに「つどい」の定番になっています。吹奏楽部としても地元民とのふれあいの場として、またボランティア活動の一環として要請があるかぎり今後とも続けていく方針だそうです。

2 手錠小学校PTA主催音楽鑑賞会

手錠小学校より、今年度はじめて、本校吹奏楽部にたいして音楽鑑賞会への出演依頼がありました。以前天道小学校におられた同校の校長先生が本校の演奏活動に好感を持ち、評価されてのことと思われます。手錠小学校は大規模校で、6年生だけでも4クラスあって、天道小学校の全児童数より多く、また、保護者も多数来られて、体育館は一杯でした。部員一同は熱気にあおられようにしてはりきって演奏し、満員の児童・保護者の拍手喝采を受けて、演奏会は大成功だったようです。



神戸市に見舞い金

今回の高専祭にはたくさんの模擬店が出ていましたが、そのなかに若い先生方が出された模擬店があったのを覚えておられると思います。先生方の模擬店は、味が良かったのか、明石焼き・焼き鳥という献立が良かったのか、それとも先生方の魅力のせいか、なかなかのにぎわいで、売り上げから材料費等を差しひいた利益が3万円にぎしかありました。使い道はいろいろ考えられたわけですが、先生方は話し合って、大きな被害にあった神戸市にお見舞いとして寄付されることにしました。利益に多少追加して4万円というキリのいい額にして、小野先生が神戸に出張されたさい、市役所に届けられたということです。

すばやい消火活動 母校を救う

機械工学科3年の平川勉君が、平成7年8月30日午後7時50分ごろ玉名郡玉東町の自宅でテレビを見ていると、女性があわてて飛び込んできて、電話を貸してくれといふことです。尋ねると、ピーチバレーの練習に来たところ中学校が火事なので消防署に電話したいとのこと。彼の母校でもある中学校は彼の家から100mと離れていました。その女性が電話をしているのをそのままにして、自分だけ急いで中学校に行ってみると、職員室が燃えていました。しかし、火はまだそれほどひどくはありません。彼でも消せそうです。あたりに目をやると、植木鉢がたくさん並んでいて、それに水をやるためにホースが目に留まりました。彼はそれをつかんで消火に努め、消防車が着いたときは彼ひとりであらかた火を消していました。彼のすばやい行動と判断のおかげで、もしかすると大火になったかもしれない火事を最小限で食い止めることができたわけです。平川君は消防署から表彰されています。



3M 平川 勉君

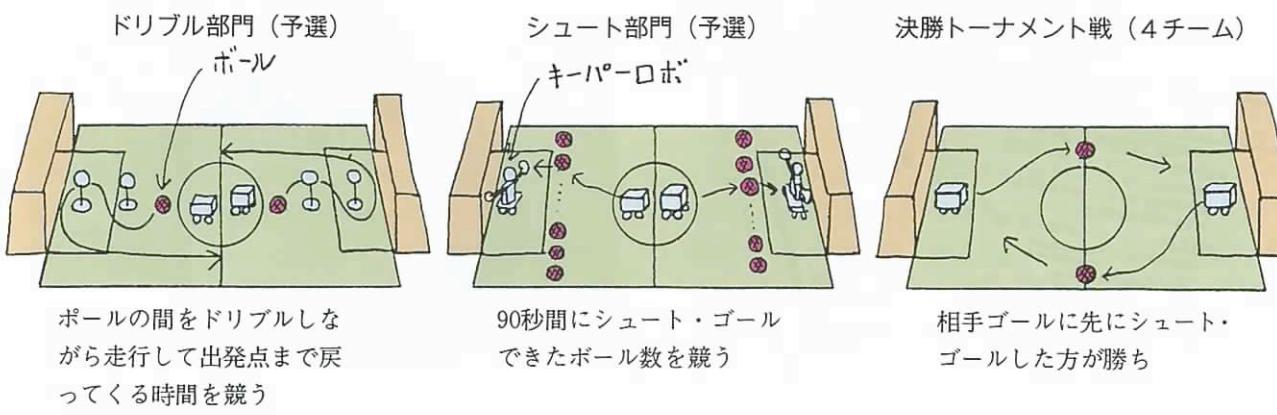
ロボットJリーグ有明ステージ'95



ロボットJリーグって何だ？

本校は、小中学生を対象とした、自作ロボットによるサッカーゲームコンテストを企画し、“ロボットJリーグ 有明ステージ'95”と銘打って、大牟田・荒尾両市の中学校に参加を呼びかけたところ、43チームもの申し込みがありました。いろいろな制約から、各校1チームの23チームに参加してもらうことになり、各チームはコンテストに先立って、本校で指導を受けながら2ヶ月にわたりロボットを製作し、本番に臨みました。

— コンテスト内容 —



— 参加チーム —

延命中	（優勝）	歴木中	吉野小
荒尾二小	（準優勝）	白光中	銀水小
田隈中	（優秀賞）	米生中	手鎌小
笛原小	（優秀賞）	松原中	駛馬北小
大牟田小	（アイデア賞）	諫訪小	平井小
船津中	（美術賞）	中友小	清里小
緑が丘小	（特別賞）	川尻小	荒尾三小
		羽山台小	荒尾発明クラブ



ロボットJリーグ有明ステージ'95

仕掛け人登場

今だから言えるウラばなし



機械工学科
田口 純一

文部省の理工系離れ対策の1つとして本校が企画したロボットJリーグは不確定な要素を多く含んでの不安なスタートであった。

まず最近の小学生がどの程度道具類を使えるかがよくわからない。私たちの時代は、男子はたいてい肥後の守(折りたたみ式ナイフ)を持っていて、これで竹や木を削り遊び道具を作っていた。今の子供がナイフをどの程度使えるのか、特にけがに対してどこまで安全指導ができるのかが問題で、製作物の材料の選択は難問であった。

結局、主材料は一昨年にN HKロボコンで使用した断熱材の両面にケント紙を貼り、曲げ強度を上げて使用することとした。これだとナイフで比較的容易に削ることができ、接着も容易で、穴も簡単に開けられる。ビスとナットでの固定もある程度できる。しかも、比重60分の1と非常に軽いので、電池2個の電力で駆動させるのには都合がよかった。また、そう簡単にロボット全体を考えだせないだろうと予想し、モデルロボットを4台作り、それを参考に改良なり、部分的変更、あるいはこれらのロボットを参考に新しい発想を促せばと考えた。

製作指導についてもどの程度手がかかるかの予想もつかなかつたが、各校1チームのいわゆる選抜チームなので中にはプラモデルなどの製作をかなりやっている生徒がリーダー格で取り組み、駆動装置の組み立ては割合簡単に作ってしまったチームが多かったのには驚くとともに一安心した。また、全員ではないにしても、非常に興味を持って取り組み、私たちの指導に対して理解度の高い生徒もいて頼もしさを感じた。

今回はポスター・デザインやバックボードの絵を描いてくれた漫研のほか、司会にも本校の女子学生2名に参加してもらったが、これも好評であった。



機械工学科
吉田 正道

決断を促す表現に「成せばなる。成さねば……」、「虎穴にいらすんば……」、「清水の舞台から飛び降り……」などがあるが、今回のロボットJリーグの企画は私にとっては無責任ながらこの様な気持ちだった。今だから白状するが、そもそも私は不器用で小さい頃から工作が大の苦手であり、まさにナイフの使い方も知らないまま大人になった口である。企画の段階では予定になかったモデルロボットの製作や本校での製作指導、本番での応急修理を中心となってやらざるを得ない状況になったとき、とんでもないことになったと正直言って泡を食った。

しかし、機械科の人は物作りが得意なはずだというスタッフの期待を感じて後にも引けず、さもロボット作りの達人のような顔を心苦しくも続けてしまった。それでも何とかなったのは、スタッフのみなさんの力であった。ところが、研究室で、モデルロボットを作っている内に、ロボット作りにのめり込んでいる自分に気づき、私はいさか驚いた。

ロボットJリーグを終えていろいろなことを感じた。それは、苦手を避けずにやってみることの大切さであり、小中学生の潜在能力の高さであり、物作りの本当の楽しさであった。また、有能なスタッフがその気になってそれぞれの得意な場面で活躍して力を合わせれば相当なことができるなど改めて実感した。

後で、参加チームの1つである荒尾少年少女発明クラブの指導者の方を訪ねる機会があったが、そのとき、クラブの生徒たちがまとめた立派な掛け図(模造紙1枚に、イラスト等を交えてロボットの製作過程と性能を示してある)を見せていただき、帰り際には、来年は是非優勝したいと私におっしゃられた。やってよかったなと思ったひとときであった。

平成7年度入試説明会・校内見学会

平成7年10月29日(日)に中学生および保護者・先生方に対し平成8年度入試説明会と校内見学会を実施しました。当日は618名の参加者があり、3組29班に分けて各組2時間半のスケジュールで行いました。視聴覚教室で校長あいさつ、学校紹介ビデオ、入試要項の説明、質疑応答の後、各学科の展示を見て回りました。

各学科の展示テーマ

M科	NCフライス盤 & 2次元倒立振り子のデモ
	CADおよび図面展示
E科	碍子の関係試験
	パソコンによるロボット制御実験
	パソコン展示
I科	プリント基盤作成デモ
	インターネット体験
C科	物理化学・有機実験装置およびパソコンによる分子模型の展示と説明
	分析化学実験の展示と実演
A科	造形・建築設計製図の作品展示
	建築材料RC・S構造の実験設備の紹介



見学終了後は、修己館で3主事および各学科の主任が参加者の相談に応じました。見学後のアンケートからいくつかをピックアップしてみました。

- ・どんなところか、どんなことをしているのかがわかつてよかったです。中には、おもしろそうな学科があって、もっと知りたいと思った。(生徒)
- ・どの科に入ろうか、迷うようになった。(生徒)
- ・学校を見学していく中で、各科の内容がわかった。絶対入りたい。(生徒)
- ・説明もわかりやすく、学生が皆しっかりしている、という印象を受けました。自分たちが学んでいることに、自信をもっているという感じもしました。(保護者)
- ・入学して、どんなことを勉強するのかが、わかりやすく、たいへんいい説明会だったと思う。(先生)

福岡市での学校説明会

10月9日(月)に福岡市の福岡国際ホールにおいて福岡市およびその近郊の中学校の先生および保護者を対象に本校の概要、入試要項、卒業後の進路等の説明会を開きました。当日は、67名の参加がありました。

参加者の声をいくつかピックアップしてみました。

- ・ビデオは生徒用にもとてもいいと思います。
- ・福岡での開催は保護者も一緒に来やすいのでよいと思う。
- ・質問しやすい雰囲気でたいへん参考になった。
- ・魅力ある学校と感じました。是非受験したいと思います。
- ・よくわかる内容でした。



中学校訪問

北は飯塚市から南は菊池郡の中学校130校に本校の先生方が手分けして学校紹介のため訪問しました。

また、中学校で開かれる高校との合同説明会にも参加して、本校の理解が深まるようにしています。なお、本年度は20校に出席しています。

平成8年度入学志願状況

学 科 名	志 願 者 数	倍 率
機 械 工 学 科	114 (3)	2.9
電 気 工 学 科	96 (3)	2.4
電子情報工学科	149 (37)	3.7
物 質 工 学 科	93 (33)	2.3
建 築 学 科	205 (64)	5.1
合 計	657 (140)	3.3

() 女子 内数

シリーズ クラブ紹介

今回は、ハンドボール部と剣道部の登場です。ハンドボール部主将の川口正喜君（4M）と剣道部主将菊次篤志君（4C）の二人に、学生会長の石橋英紀君（4E）がインタビューしました。

石橋：初めに現在の部員数と主な活動内容を教えてください。

川口：ハンドボール部は全員で30人程です。冬場はランニングなどの体力作りをやって、暖かくなる4月ごろからは試合形式の練習をします。また高専大会前は1～2週間くらい体育館内で夜間練習を行い、春休みには強化合宿をしています。



菊次：剣道部は部員数は21人です。1年を通して、ランニング、筋力トレーニング、防具をつけての練習をやっています。冬は「寒げいこ」という朝練をやります。

石橋：なるほど。では、うちのクラブはここが違うというアピールはないですか？

川口：うちは楽しいですよ。練習もそれ以外も。

菊次：剣道部も個性派ぞろいですね。それから、実力主義だから、部内での競争が激しいことが言えます。

石橋：剣道部は個人戦と団体戦のどちらを重視しているんですか？

菊次：団体戦です。試合に出られるのは7人だけだから必然的に厳しくなりますね。

石橋：では、クラブ活動をしていて良かったことやクラブ活動の魅力などを教えて下さい。

川口：人付き合いがうまくなれて良かったです。どこへ行っても先輩たちとの付き合いがあるので、苦手意識がなくなりました。

菊次：僕もそれはありますね。他にもあるんだと思いますがそれは卒業して社会に出てからじわじわと分かってくるんだと思います。それから、魅力は“ストレス発散”ですね。剣道部ですから。

石橋：キャプテンとして思うことは？

川口：キャプテンだから目標

を立てますよね。その目標のために走ったり、基礎練習をしている時に分かってもらえない時はつらいです。良かったのは指導する力がついてきたことです。

菊次：自分の組んだ練習メニューにみんながついてきてくれる時はうれしいです。嫌なことは、言いたくないことも立場上みんなに言わなければならぬことです。

川口：そうそう。指導者の一番つらいことですね。

石橋：これまで、特に印象に残っている試合は？

川口：僕が3年生の時に、高体連の試合に参加できるようになった時ですね。高専は4・5年生中心の練習だからどうしても下級生は同年代の高校生に比べるとレベルが低くなってしまいます。その時に1勝できたことがうれしかったです。それから昨年の高専大会の地区予選の決勝で、負けている時に当時のキャプテンを中心に3人の5年生が最後まで頑張っていた姿が印象に残っています。その時、何もできなかつたのがくやしかったです。

菊次：僕も3年生の高体連の大会で初出場で県大会まで進めた時はうれしかったです。それにその年“玉竜旗”という高校生の大会に出場できたことが印象に残っています。出場することが小さい頃からの夢でしたから。

石橋：ところで、今年の戦績を教えて下さい。

川口：今年は高専大会で全国大会に出場できました。全国大会では1回戦で負けたけど……。

菊次：今年は団体戦は高体連の試合でも惨敗し、高専大会でも予選落ちでした。

石橋：でも、その結果から学んだことも多かったのでは？

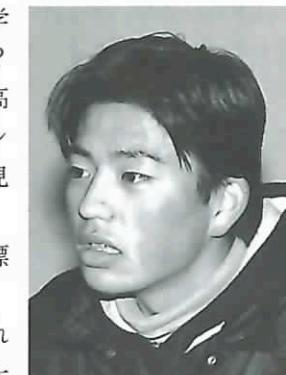
菊次：そうですね。だから高専大会後は何度もミーティングを重ね、練習メニューも見直しました。

石橋：では最後に来年の目標をどうぞ。

川口：今年の高専大会で敗れた八代高専を倒して、全国大会に出場します。何よりも、“打倒八代高専”です!!

菊次：剣道部は、高体連の大会では県大会出場を、高専大会では全国制覇を目指します!!

石橋：両クラブの活躍を期待しています。



学寮だより

新寮長挨拶



(右側)

4 A 濱口光一郎

この度、寮長に就任した建築学科4年の濱口光一郎です。自分がそそっかしいため、役員には信頼でき、しっかりした人をお願いしました。副寮長は3E鶴田義隆君、総務は4A大津仁哉君、4M田尻雅敬君です。その他の役員も豪華メンバーが揃っていますよ。

寮とは、「親も子も安心して生活できる場」であると自分は考えています。そして、「思い出を作る場、人生的友達を探す場」もあります。

いっぱい、いっぱい、寮生に寮を楽しんでもらうため、役員や関係教職員の方々と、行事を進行したり、寮の問題を解決していきたいと思います。

寮長という名誉ある役を自分なりに精いっぱいこなしていきたいと思いますので、岱明寮共々よろしくお願ひいたします。

開催行事

寮生指導者研修（4月6・7日）

関係教職員と寮生会役員が大牟田ハイツで一泊研修。

今年度の寮運営について討議した。

新入寮生歓迎夕食会（4月13日）

新入寮生61名の入寮を祝う歓迎夕食会。

新入寮生の自己紹介などを行った。

寮生出身地別球技大会（4月20日）

新入寮生の歓迎を兼ね、寮生間の親睦を図るため、ソフトボールやバスケットボールの球技を行った。

寮祭（11月25日）

恒例の寮最大の催し。劇や一発芸、マジカルバナナなどのゲームなどをを行い、楽しい一夜を過ごした。

寮生防火訓練（12月1日）

荒尾消防署の協力で、消化器の扱い方などを実際に体験した。

寮生冬季球技大会（1月20日）

各棟の階別にチームを組み、サッカー、バレーボールを行う。当日は雨天の影響で、バレーボールを行った。

寮生送別行事（2月3日）

卒業予定の寮生を送る催し。餅つきや、劇、後輩からの贈る言葉などを催した。

学習面の充実を目指して

寮での学習面の充実を目指し、本年度一つの試みとして、1年男子寮生を対象に、学習会を行いました。これは、各教科の先生の協力を得て、担当の先生が宿直の日の勉強時間帯に、銀杏棟研修室に集合して、担当の先生の教科を主体に勉強を行い、わからない点などを質問したりして、理解度を深めることを目的に行なったものです。本年度は、数学・英語・物理などの教科を数回行いましたが、日頃の疑問点などをこの機会に質問したりして、なかなか好評であったように思われます。本年度の学習会は、1年男子寮生のみを対象に行いましたが、可能ならば上学年についても実施できればよいと思います。

また、若葉棟の空き室の教室を、自習室として設置し消灯後の学習に利用できるようにしていますが、1年生を主体によく利用されています。

さらに、本校のLAN設備の新設に伴い、今まで電子計算機室で使用されていたパソコンを数台譲り受け、寮にもパソコン室を設けました。ソフトもプログラム言語に限らず、ワープロ、表計算など揃っていますので、寮生にとっては今までまならなかった情報処理関係の学習を始め、さまざまなことができる環境が新しく1つでできたことになりました。

これらのことを契機に、寮での学習面の充実がより一層はかれればよいと思います。



寮生数

学年	平成7年 4月1日現在	平成8年 1月22日現在
1年生	61 (13)	52 (10)
2年生	41 (14)	39 (13)
3年生	60 (21)	54 (17)
4年生	40 (2)	37 (0)
5年生	33 (0)	20 (0)
計	235 (50)	202 (40)

() 女子 内数

学生会だより

学生会長 4E 石橋 英紀

本校の学生である皆さんは、入学と同時に学生会の一員となりました。この学生会の行事にはさまざまなものがありますが、来年度最大の行事と言えばやはり体育祭でしょう。この体育祭が成功するかしないかのカギをにぎっているのは学生会役員であり、皆さんなのです。互いに協力し合い、各行事を立派に成功させましょう。

会計 4I 古賀 愛

今回、私は会計という重要な仕事を任せられました。学生会役員は2年目ですが、会計の仕事は初めてです。まだ、仕事の内容を十分理解できていませんが、1年間責任を持ってやっていきたいと思います。今回は私にとって最後の体育祭があります。そして、最後の1年です。学生会役員として、また高専生として悔いのないように過ごしていきたいと思います。

整美局 4E 米田 秀平

今年の整美局の目標は昨年と同じく、掃除の徹底です。自分は整美局を昨年に続き今年もさせてもらうことになりました。活動内容は、今のところ昨年と同じく、週1回の掃除を徹底させて、その点検を行うつもりです。来年、他高専と交流会が行われるので、そこで他高専の掃除状況について話し合いをして、その内容次第で、新しい活動をしようと思っています。みなさんも教室や廊下など、きたないところがあったら、その時はすぐに掃除をするようにして下さい。

体育局 4A 坂口 譲顕

今年は体育祭が行われます。学生会がいくら優れたプログラムを考えたとしてもみなさんの協力がなければ体育祭は成功しません。また学科単位での練習をしっかりと行い、その成果を体育祭当日に発揮して一生懸命に競技を行えば、体育祭は盛り上がり成功することができるのです。がんばりましょう。



学生会役員

学生会会長	石橋 英紀 (4 E)
〃 副会長	西村 真哉 (4 I)
〃 (涉外局長)	柳川 寿子 (3 A)
書記	若菜 晃子 (4 C)
涉外局副局長	笠間 敏博 (2 C)
会計	古賀 愛 (4 I)
〃	山口 勤 (3 M)
体育局局長	坂口 譲顕 (4 A)
〃 副局長	吉田 康男 (4 M)
〃	森山 史朗 (3 A)
〃 補佐	磯田 恵子 (3 I)
〃	椿 康弘 (2 M)
文化局局長	中西 葵 (4 E)
〃 副局長	井上 和哉 (3 E)
〃 補佐	猿渡 直人 (2 M)
整美局局長	米田 秀平 (4 E)
〃 副局長	佐藤健太郎 (3 E)
風紀局局長	月足 賢治 (4 E)
報道局局長	北島由美子 (4 I)
放送局局長	田中にじ子 (3 A)
〃 補佐	永田 和美 (2 C)
〃	武末 幸代 (2 C)

学生会研修

11月半ばに新役員が決まり、活動を開始しました。そこで11月22・23日に新役員が学生主事室の先生方と共に大牟田ハイツでの1泊研修を行いました。18日夜、各自が自己紹介及び役員としての抱負を述べたあと、新年度の年間行事の日程、30日に行われる冬季球技大会について話し合いました。また今回の研修でも、前会長を含む旧役員3名の参加があり、新役員への助言や激励の言葉をいただきました。短時間の研修でしたが、各自が自分の役割を認識できた有意義な研修を行うことができました。

九州地区国立高専 ラグビー・フットボール大会

私達は昨年の大会で都城高専に67対3という大差で敗れました。みんなは悔いのない試合と言っていましたが私はそうは思いませんでした。都城は確かに全国大会で何度も優勝していますが同じ年代で何故あんなに差があるのかと考えました。そして練習の方法や気持で敗けているのではと思いました。だから今年は例年と違い冬の走り込みや筋トレなど部員一同、一人も根をあげることなく2倍、3倍の練習をこなしました。初めて春休みにも練習をしました。夏の合宿も2週間やりました。みんな自分自身に自信が持てるようになりました。

今年の1回戦の対戦相手は昨年同様、都城高専でした。昨年は対戦するのが嫌でしたが今年は敗ける気がしませんでした。今年のチームは5年生が多く、技術や体力も十分でした。試合が始まり前半を0対8で終了しました。勝てると全員が思っていましたが、思うように前に進めず反則の連続で、有明のラグビーは全くできず0対25で敗れました。悔いの残る試合でした。チャンスは何度もあったのに点に結び付かず、惨敗でした。しかし、この1年間やったことは決して無駄ではなかったと思います。とても充実していた1年でした。



第27回吹奏楽部定期演奏会

1月27日(土)、18:00より大牟田文化会館大ホールで本校吹奏楽部の第27回定期演奏会が開催されました。今回のテーマは“Believe the Dream (夢を信じて)”ということで、聴いていただく皆さんに夢を抱いてもらえるような演奏会にしようと部員一同張り切って準備をしていました。演奏会は例年どおり3部構成で、5年生紹介や部員のパフォーマンス等も交えて、アットホームな演奏会になりました。

冬季球技大会



11月30日に冬季球技大会が行われました。当日は雨などの天候の心配こそありませんでしたが、とても寒い一日でした。しかし大会ではその寒さを忘れてしまうような、すばらしい試合が多く見られました。

大会を振り返ってみると、ほとんどの種目で上位年次の活躍が目立ちます。下級生と比べると身体的な有利さもあるのかもしれません、それよりも4年5年という月日を重ねて培ってきたチームワークがものを言っているようです。1年の時はまったく活躍できなかったチームでも4、5年になっての今回の大会では上位進出をはたしているチームがたくさん見られます。次回は力を合わせて上位進出をしてほしいと思います。

	優勝	準優勝	MVP
サッカー	5 E	5 I	5 E 金子 知実
バスケットボール	4 I	5 I	4 I 古賀 友昭
ハンドボール	4 E	3 M	4 E 江頭 義也
卓球	2 E	2 M	2 E 平石 智嗣
女子バスケットボール	3 C	4 I	3 C 梅野 初美
最優秀クラス	5 E		
優秀クラス	5 I		



本冊子中M・Eなどあるのは、次の学科を意味するものです。

M (機械工学科)、E (電気工学科)、I (電子情報工学科)、C (物質工学科・工業化学科)、A (建築学科)

建築設計競技

(社)福岡県建築士事務所協会の主催で、平成7年度福岡県内工業高校生並びに専門学校生による建築設計競技が9月に行われました。課題は「こうばん」的施設で、本校からは3A6名、4A1名、5A4名が応募し、高校生の部で3A森山史朗君が銀賞を、専門学校生の部で4A野正千恵子さんが県警本部賞を、5A田中俊光君が銅賞を、獲得しました。その他、3A宇都宮由理さん、高倉英彰君、5A田畠友里恵さんが佳作に入りました。例年には好結果を納めました。



県警本部賞を受賞した4A野正千恵子さんの作品



機械科中庭の紅梅



春風にむかふ椿のしみりかな
野坂（やば）



蛇笏（だこつ）



正門横の椿

・編・集・後・記・

平成3年度に編集方針の大幅な見直しを行い、対談形式を取り入れ、シリーズものを始めました。それ以来、本紙は高い評価を得ています。文部省の広報紙コンクールにおいて、4年度奨励賞、5年度優秀写真賞、6年度最優秀賞、7年度は優秀レイアウト賞を頂きました。名誉なことだと思います。しかし、現在の方針にしてすでに5年が過ぎ、マンネリになっている部分もあります。多少見直しが必要なかもしれません。

有明高専だより 第88号

平成8年3月1日

編 集

有明高専広報委員会

発 行

有明工業高等専門学校

〒836 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011(代)